

江戸幕府を開いた將軍徳川家康は、小さな豪族の松平家に生まれ『竹千代』と名付けられました。幼い頃の竹千代は、大名今川義元に入質として送られてしまいます。義元は、幼い竹千代の秀でた才覚を見抜き、「このまま成長していけば、いざれ面倒な相手になるに違いない。」と考えるようになります。そこで義元は、家臣に次のように命令したのです。「竹千代に『むごい教育』をして、ダメな人間にしろ」と。

その家臣は、竹千代を日が昇る前から起こし、粗末な食べ物しか与えず、一日中剣術、武術、馬術、夜は学問をさせ、毎日くたくたになるまでしごきました。

後日、義元は家臣に「その後どうなっているか？」と尋ねました。

家臣が一部始終を得意げに報告すると、義元は家臣を叱りました。

家臣は「では、『むごい教育』とはどのようなすればよいのでしょうか。」と聞き返します。

義元は次のように答えました。

「寝たいときはいつでもいくらでも寝かせよ。」「学問がいやらやらさせるな。」「寒いときには、暖かい服を何枚も着せてやれ。夏は暑くないように涼しくしてやれ。」「贅沢なご馳走を好きなだけ食わせろ。」「嫌がる事はさせるな。好きな事をさせろ。」「それはそれは大事にしてやれ。」「さて、どうしてこれが『むごい教育』なのでしょうか？」

義元は最後に言いました。

「そうしたら、たいいてい人間はダメになる！」

義元の本意を理解できなかった家臣がきちんとした教育をした。という皮肉なエピソードです。

この話にはこのようなメッセージが含まれています。

① 贅沢をしすぎないこと

② 辛抱させること

③ 自分の思い通りにならない経験を積むこと

④ 学問は好き嫌い関係なく取り組むこと

⑤ 我慢させること

少子・高齢化の進行、社会の繋がり希薄化など、現代社会の状況は大きく変化してきています。将来の変化を予測することが困難な時代を前に、次世代を担う子どもたちに、『生き抜く力』を身に付けさせるのは大人の責務です。「そのことが子どものためになるのか、ならないのか」、「子どもたちに好きなようにさせる事と伸び伸び育てる事の違い」は大人が判断しなければなりません。時には「物わがりの悪い大人」も必要ではないでしょうか。

子どもたちが豊かな未来を築くために、一人一人の可能性を伸ばし、新しい時代に求められる資質、能力を確実に育成していくことや、そのために求められる家庭、学校、地域の教育は何を準備しなければならぬのかを、三者で協働し探究していくことが、今後より一層重要になってきています。

## 連載・青少年健全育成シリーズ 第308回

### 「むごい教育」

青少年の声かけあいさつ運動の推進  
『大人も子どももすすんであいさつをしよう』

毎月第1日曜日は「家庭の日」  
毎月第3日曜日は「青少年を育む日」です。  
青少年育成都留市民会議編集委員

### 広報「つる」広告募集！

あなたのお店の広告を広報つるに載せてみませんか？  
広報「つる」は、都留市内の各家庭に配布されています  
(10,300部発行)ので、多くの方の目に触れます！

問合せ先：総務課 法制広報担当

#### 広告料金

掲載場所	印刷色	金額 / 枠	備考
裏面	カラー	20,570	2カ月掲載
内面	2色刷り	10,280	2カ月掲載

掲載月は、①1・2月②3・4月③5・6月④7・8月  
⑤9・10月⑥11・12月の6パターンとなります。

掲載状況は、下記をご参考としてください。

また、詳細につきましては、ぜひお問い合わせください。

広告掲載欄

広告掲載欄